

Building of Music (神田宮地ビル)

この建物は楽器店の本社ビルである。楽器店の本社ファサードとしての顔を持っているが、スピーカーに見立てたこのメッシュ膜がまず目を引く。楽器店にふさわしい外観である。中に入ってみるとレースのカーテンのように外からは見えないが、内部からははっきりと外が視認でき、メッシュ膜による圧迫感は全くない。また日射を遮る効果と通風の効果があるため、やわらかい光と風が窓から入ってくる。夜間は逆に内部の光が外に漏れ、行灯のような効果を発揮している。メッシュ膜の視認性に対する特性が十分に発揮されている。メッシュ膜を張るためのフレームは窓枠や照明と合わせて配置されており、存在感がない。メインの鉄フレームと膜定着用のアルミで構成されているが、コスト低減のために曲線を多角形に加工したことなどもよく考えられており、意匠的に全く違和感がない。メッシュ膜には穴があいているが、縦に湾曲して奥行を持っていることで、玄関前でも雨が下まで落ちてこず庇の役割をしているという。工事段階でも、メッシュ膜を足場なしで外部から施工できたことで工期短縮に貢献できたという。都市の密集した街路の中の楽器店で、外観がスピーカーというだけでなく二重三重の良さがあり、このメッシュ膜が採用にいたっている。このような建物は海外では見かけるが国内ではあまり事例もなく、今後国内での一層の普及につながることも期待でき、膜構造デザイン賞の主旨に十分合致するものである。

表彰委員 児玉悟志